

コッパ・チェントロ・ジャッポーネ 2026

5月28日(木)・29日(金)・30日(土)開催



昨年の『コッパ・チェントロ・ジャッポーネ 2025』 中部電力ミライタワーをバックに赤いフェラーリがミズベヒロバに勢揃い

世界の自動車文化の中心を掲げ、モビリティの昨日・今日・明日を俯瞰するイベント「コッパ・チェントロ・ジャッポーネ2026」が5回目の開催を迎える。5月28、29、30日、名古屋市久屋大通公園や名古屋市役所、愛知県庁を舞台に繰り広げられる。今年は愛知・岐阜で開催のWRC（世界ラリー選手権）日本ラウンド「フォーラムエイト・ラリージャパン」の機運醸成を担うべく、会期を合わせて実施。「自動車文化圏の中心を目指す催事にしたい」と平松正光同大会実行委員長は意気込む。

『世界ラリー選手権』今年から名古屋が開催都市に

世界ラリー選手権は欧州を中心にアフリカ、中南米、中東など各国の一般道などを1月から11月の間、転戦しながら走破する競技でF1に次いで伝統ある自動車レース。国際自動車連盟（FIA）主催で今回は第54回大会。日本開催の正式名称は世界ラリー選手権フォーラムエイトラリージャパン2026。豊田市や岐阜県恵那市の山間道などが会場で期間は28～31日までだが、今年から名古屋市が開催都市に加わり、5月28日、オープニングセレモニーが名古屋城の愛知県体育館敷地で開かれ、出場のラリーカーなどが雄姿を見せる。

「日々の我々の暮らしの中のバックボーンのひとつでもある産業と向き合う場として、自動車の昨日・今日・明日をテーマにイベントを催し



コッパ・チェントロ・ジャッポーネ 2026 について熱く語る平松氏

てきましたが、今年から世界的なモータースポーツの開催拠点として名古屋が加わる、ということで大会のキャッチフレーズも Coppa Centro Giappone の名に込められた和訳の意でもある【世界の自動車文化の中心】を掲げる事としました。更なる魅力を創造し、世界へと憧れる自動車文化の発信を目指していきます」と平松さんは熱く語る。

ラリージャパンの熱戦の様子は久屋大通公園内の吹き抜けのメディア広場に設置されるパブリックビューイングで実況中継される予定。

新企画「頭文字（イニシャル）D」リアル版登場

もう一つのフォーカスポイントは車好きの若者が熱狂した大ヒット漫画「頭文字（イニシャル）D」30周年記念に因んだ特別展示。同作品は1995年～2013年まで「週刊ヤングマガジン」（講談社刊）連載の峠道を舞台に繰り広げられる若き走り屋たちの物語（しげの秀一作）で全48巻。連載後、アニメ放映や映画化など続編も人気で、国内の主要メーカーの名車など約30車種が登場する。

「本特別展示に併せて、主人公が乗るトヨタのAE86（ハチロク）とライバルが操るマツダのRX-7のフルラッピングによる作画仕様車を制作、さらに他の劇中車両仕様を含む計16台がミライタワー南のミズベヒロバにズラリ並びます」と平松さん。

会場には頭文字Dをテーマにしたカフェが登